

区域施策編の施策に紐づく各事業の検討の際の知見回答一覧 断熱改修

(項目名) ①断熱改修に対する補助金

【磐田委員】

「今後の啓発に活用できるデータの取り方」

※現在窓改修に必要な部品調達が困難（国の補助制度により改修集中、ガラス不足）な状況であるため、年度内の予算消化が難しい案件が生じる可能性がある。

<https://www.zoukaichiku.com/2023onestophojokin>

部屋の快適性は文面での情報提供では伝わりづらく、また、実際へのアクションへ繋がりにくい。高断熱化による快適性を本人が体感する、あるいは信頼するリソースからの情報を共有することが、改修行動を誘因する要素であることが示唆されている。

<https://www.jst.go.jp/lcs/pdf/fy2021-pp-07.pdf>

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/jutaku/study/02.html>

これまでの調査では、高断熱モデルルームの宿泊体験を地域のモデルルームと連携して実施する取り組みや、市内断熱改修施工業者の市認定制度が、断熱改修行動を促すことが示されている。

例)

- ・高断熱モデルルーム（開口部のみの高断熱化でも OK）を 17 時～翌 10 時に宿泊体験場として貸し出してくれる事業者に対する資金補助（クリーニング費他）
- ・婚姻届提出者に対する無料宿泊体験情報案内と SNS 配信依頼
- ・優良施工業者の市認定制度の実施

高断熱化に伴う健康面のメリットでは以下の調査があるが、市内医療機関において、こうした健康増進情報や費用対効果が最も高い開口部断熱の市補助情報を合わせて掲示する対策もあり得る。

https://smart-sumai.jp/news/pdf/24_ikaga.pdf

【前委員】

全体を通しての自分の認識として、補助金にたよった誘導策は限界があると考えています。年度単位の補助金は工期が長い工務店には不利で、ハウスメーカーばかりが利用してしまいます。また補助金の申請業務は煩雑で負担が大きく、また補助金の予算の使い切りを気にして、なかなかお施主さんにお勧めできないのが実態です。また予算総額が少なければ大した件数をカバーできず、大した実効性はありません。行政の担当者は自分の任期中の実績作りとして、手離れのよい単年度の補助金を好むようですが、実効性・公平性の面から望ましくありません。自分としては、金融・不動産の側から、住宅の性能に価値を認めて融資する、というのが一番重要であると考えています。

効果的な断熱改修の方法については、自分の方でまとめた資料があります。

https://risou-r.jp/_wp/wp-content/uploads/2020/04/marketing01-2.pdf

断熱改修の普及に向けた企業コンソーシアムも主催しています。

<https://www.s-housing.jp/consortium>

また、08/17 に高性能住宅への優遇ローンのウェビナーも開催予定です。

<https://go100re.jp/3594>

【安田委員】

1, 工事の範囲

窓のみ(一番効果が高い)例 2 重窓で工事期間が短い。部分改修は不要。

2, 補助対象

全て

3, 対象設備の指定の必要性

一定の基準を決める

4, 今後の啓発に活用できるデータの取り方

エネルギー消費が少なく, ヒートショックが少なく快適です。

5, 補助金額の設定

費用の 1/5(上限 3 万円)

支給は地域通貨とする。